

平成 29 年度 研究計画書

Research Plan FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア II 講座 特任准教授
氏名 Name	Htet Htet
専門分野 Academic Field	言語学

平成 29 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2017 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ビルマ語と日本語における身体語彙を含む表現の対照研究				
<p>研究計画 (400 字~500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words)</p> <p>ミャンマーと日本は同じアジアに位置し、いくつかの面で文化的に類似した点が見られる。ビルマ語と日本語には身体語彙を伴う慣用句が多くあるが、その比喩表現には類似点も見られる。身体部位を示す語が本来の意味を超え、複数の意味へ拡張することはよくあることだが、完全に形式が一致しない場合があるほか、表現形式が全く異なる場合もある。このような身体語彙を用いた表現の類似点と相違点に着目し、ビルマ語を日本語と対照させながら考察する。</p> <p>類似点の具体例を挙げるとすれば、ビルマ語の <i>hnou? lé dè</i> 「(直訳) 口が重い」がある。これは、日本語の「口が重い」と同じ意味を持ち、言いにくいことを表すのに用いる。また、ビルマ語の <i>mye?hnà cí dè</i> 「(直訳) 顔が大きい」は、日本語の「顔が広い」が表す意味と重なる部分もあり、形式と意味にの少し違いがあるものの、似ていると見て良いだろう。その一方で、相違点もある。ビルマ語の <i>mye?hnà nè dè</i> 「(直訳) 顔が小さい」は「肩身が狭い」という意味だが、日本語ではビルマ語と同じような比喩表現で「肩身が狭い」という意味を表すことができない。</p> <p>上記のような慣用句のデータを集め、意味拡張のプロセスも考えながら分析していく。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	3201				
キーワード Keywords*2	対照言語学	ビルマ語	日本語	身体部位	比喩表現